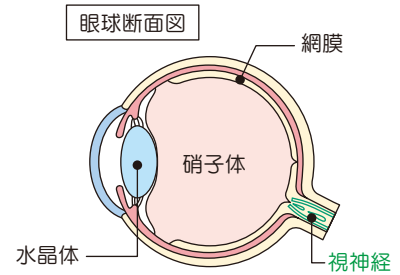


特集 知っておきたい緑内障

緑内障は、目から入った情報を脳に伝える視神経という器官に障害が起こり、視野(見える範囲)が狭くなる病気です。失った視野を元に戻すことはできませんので、治療が遅れると失明することがあります。



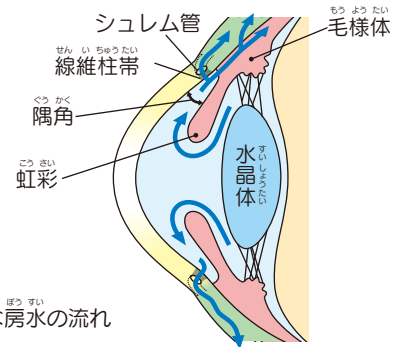
緑内障の進行イメージ

数年かけて非常にゆっくりと進行し、少しずつ見える範囲が狭くなっていきます。



原因

眼球内を流れている房水の流れが悪くなり、眼圧(眼球内の圧力)が上昇し、視神経を圧迫することが主な原因とされています。しかし日本人は、眼圧が正常範囲内であるにもかかわらず、緑内障を発症することが多いことも分かってきました(正常眼圧緑内障)。



治療

治療の基本は眼圧を下げ、視神経を守ることです。点眼治療の他、手術治療等を行います。多くは進行性ですので、治療は一生継続する必要があります。

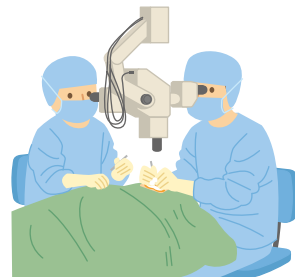
◆ 点眼治療

毎日目薬をさします。



◆ 手術治療

房水の出口を切開したり、新しく房水が流れるトンネルを作ったりして、房水が眼外へ流れやすくします。白内障手術により厚くなった水晶体を眼内レンズに入れ替えることで、房水の流れが改善される事もあります。



緑内障は、日本人の失明原因疾患の第1位となっています。40歳以上の日本人の20人に1人が緑内障と言われ、その数は年々増加しています。しかし、症状を自覚しづらいため、眼科を受診されている方が少ないのが現状です。早期に発見できれば、進行を抑える事も可能です。40歳を過ぎたら、自覚症状がなくても眼科での定期検査を受けられる事をお勧めします。

出田眼科病院 副院長 松元 俊

